

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2023年(令和5年)3月15日号 No.1919

目次

■ 2022年のロシア港湾の貨物量	1
■ 統計速報	8
2023年1月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／8	
2023年1月の日ロ貿易／9	
■ トピックス	12
ヤンマー、ロシアから撤退／12	
カナダ、ロシア産アルミニウムと鉄鋼製品を禁輸／12	
モスクワの国際交流基金図書館、今月末で退去へ／12	

2022年のロシア港湾の貨物量

はじめに

ロシア港湾の取扱貨物量の2022年の実績を入手したので、本号では、早速このデータを図表にまとめてお届けする。

昨年1年間のロシア港湾の取扱貨物量は、8億4,150万tと、前年と比べ0.7%の増加となった。このうち、ドライカーゴは4億470万tと、前年と比べ2.0%の減少となった。一方、液体カーゴは4億3,680万tと、前年と比べ3.4%の増加となった。

取扱貨物量は2000年には1億8,230万tだったが、コロナ感染拡大で経済活動が一時ストップした2020年を除いて一貫して増え続け、4.6倍に拡大した。

昨年は、ロシアの軍事侵攻と西側諸国の制裁で、輸出が停止したり、船が寄港しなくなったりするなど予想もなかった事態に翻弄された1年だった。西側諸国との決定的な対立によって、ロシアの対外貿易の構図は一変した。輸出入貨物の品目構成の変化や、荷役拠点を変更する物流の変化を引き起こした。ただ、全体の数字を見る限り、前年の数字を上回り、引き続き高い水準を堅持した。

どんな貨物を運んでいるのか。ドライカーゴでは、コンテナが前年より26.0%減って4,531万t、鉄鋼が15.7%減って2,447万t、木材が22.3%減って320万t、鉄スクラップが77.6%減って66万tなどとなっている。一方、鉱石が前年より6.0%増えて1,266万t、石炭が1.8%増えて2億652万t、穀物が6.4%増えて4,507万t、肥料が25.1%増えて2,416万t、非鉄金属が13.8%増えて386万t、フェリー貨物が1.6倍増えて658万tなどとなっている。液体カーゴでは、原油が前年より7.5%増えて2億5,601万t、液化ガスが8.8%増えて3,519万t、食品が8.6%増えて454万t、化学品が2倍増の222万tとなっている。一方、石油製品が前年より5.3%減って1億3,884万tとなった。